

平成29年度大阪府中学生
チャレンジテスト（第3学年）の結果について

柏原市教育委員会

本冊子の構成

1. 調査の目的
2. 調査概要
3. 教科別の調査結果
4. 教科別のアンケート調査結果（同一生徒群経年比較）
5. 柏原市の結果からからみる今後の課題について

1. 調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 大阪府教育委員会が、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (3) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。
- (4) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (5) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2. 調査の概要

- (1) 調査日 平成29年6月21日（水）
- (2) 対象学年 中学校第3学年全生徒
- (3) 調査内容 中学校第3学年 国語・社会・数学・理科・英語
アンケート調査

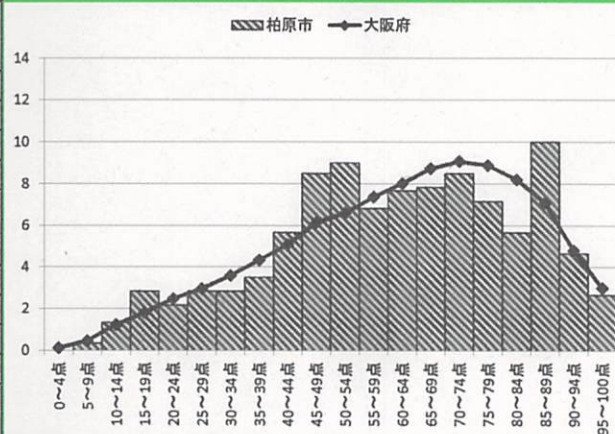
3. 教科別の調査結果

①国語

	平均正答率(%)
柏原市	60.9
大阪府	61.7

分類	区分	対象設問数(問)	正答率	
			柏原市	大阪府
学習指導要領との関連	話すこと・聞くこと	6	75.2	75.9
	書くこと	7	48.0	47.5
	読むこと	12	51.8	52.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	65.4	67.6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	—	—	—
	話す・聞く能力	6	75.2	75.9
	書く能力	7	48.0	47.5
	読む能力	12	51.8	52.0
	言語についての知識・理解・技能	11	65.4	67.6
問題形式	選択式	14	68.5	68.7
	短答式	17	60.4	61.9
	記述式	2	32.8	31.7
	全体	33	60.9	61.7

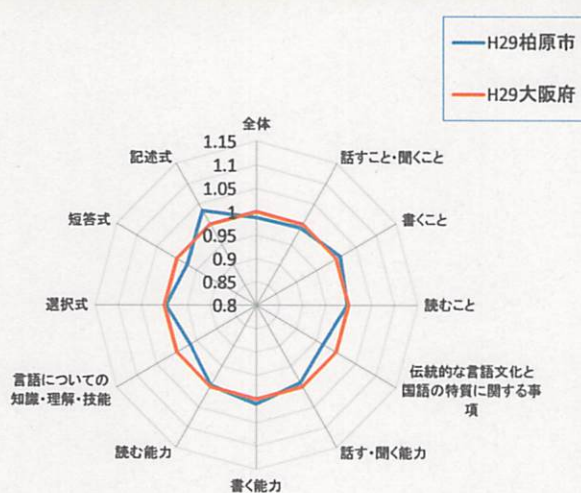
◆得点別分布の割合



・分布は、得点の高い方に寄った山型となっている。

・大阪府の分布に比べ、55点～84点の分布が少なく、40点～54点の分布が多い。

◆領域別等のレーダーチャート(大阪府の平均正答率を「1」とした時の柏原市の平均正答率)



・「書くこと」「書く能力」「記述式」において、大阪府の平均を上回っている。

・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「言語についての知識・理解・技能」「短答式」において 大阪府との開きがある。

◆特徴的な傾向と対策

・「話すこと・聞くこと」は府の平均を若干下回るものの、正答率からみて良好な結果であった。

・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についても概ね良好な結果であったが、漢字を書く設問において、『テンボウ』を『展望』と解答することができた生徒の割合は28.2%で、無回答率が23.7%であり、課題もみられた。
授業において、文脈に即して漢字を正しく書く指導が求められる。

・「書くこと」は府の平均を上回り、「読むこと」は府とほぼ同等であり、成果がみられたが、正答率からみて課題も残った。特徴的なものとして、「書くこと」について、実際に課題のあった設問を次頁に示すが、『話し合いの中で出た意見を黒板にまとめる力』を測る設問において、正答率が42.2%(無回答率7.7%)であった。
授業において、ペアやグループ交流等をとおして、他人の話の構成や展開に注意して聞き、整理してまとめさせる指導が求められる。
また、『事実や事柄の特徴を「条件やキーワード」に着目してまとめる力』を測る設問において、無回答率が26.3%(正答率52.7%)であった。

授業において、事実や事柄が相手に効果的に伝わるように、説明を工夫して書かせる指導が求められる。

学級会で、体育大会の時に使うクラスの応援旗のデザインを決めるために話し合っているという場面設定がある設問②の小問3の(2)の②

『話し合いの中で出た意見を黒板にまとめる力』を測る設問において、正答率が42.2%（無回答率7.7%）であった。授業において、ペアやグループ交流等をとって、他人の話の構成や展開に注意して聞き、整理してまとめさせる指導が求められる。

3 次は話し合いの経過を記録した「黒板」です。この内容を読んであとの問いに答えなさい。

	(A班)	(B班)
デザイン		
得意理由	・クラス目標に合っている	・優勝に必要な勢いや情熱が伝わる
相違点		を削いでいる
共通点		
意見	長所 ア 短所 イ	長所 ウ 短所 エ

(1) 推薦理由の [] に当てはまる語も適している語を、「学級会」の部から抜き出なさい。

(2) 話し合いの中で決めた [] のような意見が出ました。これを読んであとの問いに答えなさい。

体育大会は五ノットをアとBとをアとBとを使った応援旗を出場をがたいです。
A班はアとBとを使った応援旗にしたいです。

① この意見は「黒板」のA班の部分を写せばいいですか。横線は引いてもらって「選りなさい」。

② この意見を「黒板」に書くときは、どのようにならなくてはいけないか。 [] の中の言葉を十五字程度でまとめなさい。

高田さんが夏休み前の課題研究で「カワウソ」について、「資料」をもとに調べているという場面設定がある設問④の小問3の(3)

『事実や事柄の特徴を「条件やキーワード」に着目してまとめる力』を測る設問において、無回答率が26.3%（正答率52.7%）であった。授業において、事実や事柄が相手に効果的に伝わるように、説明を工夫して書かせる指導が求められる。

3 高田さんは、「資料」に書かれているカワウソのすみかの特徴について、次のように「フット」にまとめました。これを読んであとの問いに答えなさい。

カワウソのすみか
(特徴)
○ 敵に見えられ、侵入されにくいように、
○ ために、長いトンネルにしたこと。
○ のために、外界に開いた換気孔を作ったこと。

フット
A []
B []

(1) A と B に当てはまる言葉を「資料」から抜き出さない。ただし A は十七字、B は五字で書くこと。

(2) 「フット」の [] には、長いトンネルが集まる機能についての言葉が入ります。 [] はまる言葉として最も適しているものを、次のア〜エから一つ選びなさい。

- ア 壁面に入るまでにカワウソの体について水をふき取る
- イ 敵が潜水して出入口を見つけて出すを防ぐ
- ウ 何世代にもわたって使用できるようにする
- エ 水中に入って魚介類を捕食しやすくする

(3) 「フット」に、外界に開いた換気孔とありますが、カワウソの単の換気孔の特徴について、次の条件に従ってまとめなさい。

- 条件1 安全性に着目して、特徴を二点取り上げて書くこと。
- 条件2 「換気孔は」に続けて、三十字程度で書くこと。（換気孔は」の字数は含みません）

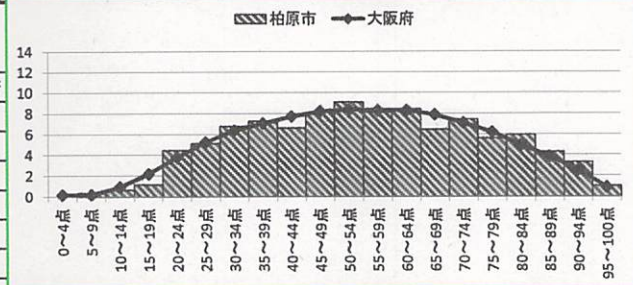
この設問は「黒板」に書くときは、どのようにならなくてはいけないか。 [] の中の言葉を十五字程度でまとめなさい。

②社会

	平均正答率(%)
柏原市	55.3
大阪府	54.4

分類	区分	対象設問数(問)	正答率	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域との関連	地理的分野	19	57.5	57.2
	歴史的分野	17	52.6	50.8
評価の観点	社会的事象への関心・意欲・態度	—	—	—
	社会的な思考・判断・表現	17	51.9	50.7
	資料活用 of 技能	4	57.3	57.4
	社会的事象についての知識・理解	15	58.8	57.8
問題形式	選択式	28	55.4	53.9
	短答式	6	54.5	56.8
	記述式	2	56.3	53.5
全体		36	55.3	54.4

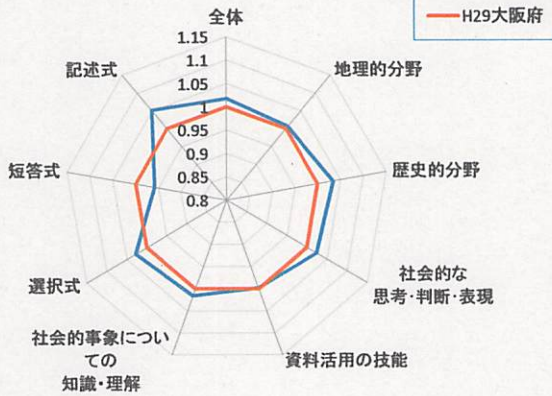
◆得点別分布の割合



・分布は、50点～54点をピークとする山型となっている。

・大阪府の分布に比べ、80点～94点の分布が多い。

◆領域別等のレーダーチャート(大阪府の平均正答率を「1」とした時の柏原市の平均正答率)



・「地理的分野」「歴史的分野」「社会的な思考・判断・表現」「社会的事象についての知識・理解」「選択式」「記述式」において、大阪府の平均を上回っている。

・「資料の活用」は府とほぼ同等である。

・「短答式」において、大阪府との開きがある。

◆特徴的な傾向と対策

・「地理的分野」「歴史的分野」とも府の平均を上回り、良好な結果であった。

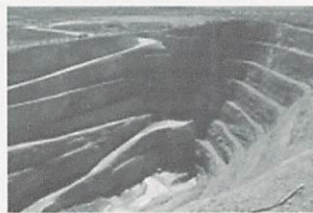
・「記述式」においては、府を2.8ポイント上回り、成果がみられた。

・「社会的な思考・判断・表現」についても府を上回り、概ね良好な結果であったが、『歴史的分野』において、「弥生時代のできごととして誤っているものを選ぶ」設問の正答率が39.1%、また、「室町文化に関する正しい説明を選ぶ」設問の正答率が21.1%、「中国で明がおこり、勘合貿易が始まったときのわが国の時代を選ぶ」設問の正答率が33.0%と課題もみられた。
授業において、文化や外交などの歴史的事象を、時代の流れの中でとらえさせる指導が求められる。

・「社会的事象についての知識・理解」について、府の平均を上回り、成果が出ているが、『地理的分野』において、「オーストラリアの鉄鉱石鉱山で行われている採掘方法の名前を書く」設問(実際の設問は以下に示す)で「露天掘り」と正答した生徒の割合が12.0%、また無回答率が42.4%と課題もみられた。
授業において、社会的事象についての知識・理解について、地理的特徴と関連付けながら、定着を図る指導が求められる。

授業において、社会的事象についての知識・理解について、地理的特徴と関連付けながら、定着を図る指導が求められる。

(2) 次の写真は、オーストラリアの鉄鉱石鉱山で見られる、地表から掘り下げていく採掘の様子を表しています。直接地表から鉱産資源をけずり取る、このような採掘方法を何と呼びますか。書きなさい。

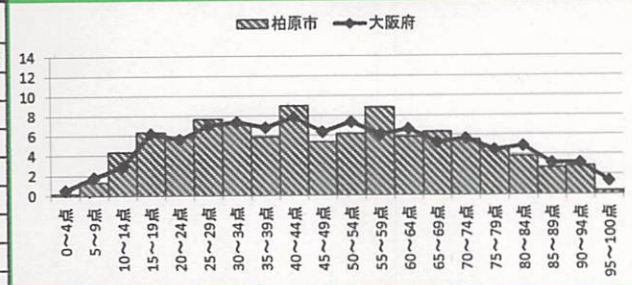


③数学

	平均正答率(%)
柏原市	47.8
大阪府	49.0

分類	区分	対象設問数(問)	正答率	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域	数と式	9	56.8	58.2
	図形	8	39.6	41.4
	関数	8	42.5	43.5
	資料の活用	6	52.7	52.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	—	—	—
	数学的な見方や考え方	6	31.2	32.9
	数学的な技能	14	52.0	54.2
	数量や図形などについての知識・理解	11	53.2	52.7
問題形式	選択式	14	56.9	57.4
	短答式	15	44.4	45.9
	記述式	2	18.8	21.5
全体		31	47.8	49.0

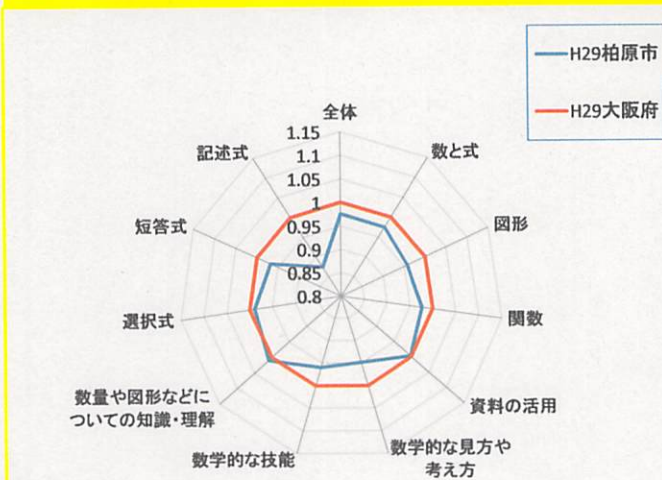
◆得点別分布の割合



・分布は、やや得点の低い方に寄った山型となっている。

・大阪府の分布と比較して、10点～29点、40点～44点、55点～59点の分布が多く、80点～100点の分布が少ない。

◆領域別等のレーダーチャート(大阪府の平均正答率を「1」とした時の柏原市の平均正答率)



・「数量や図形などについての知識・理解」「資料の活用」以外は、大阪府との開きがあり、特に「記述式」については、開きが大きい。

◆特徴的な傾向と対策

・「数量や図形などについての知識・理解」において、府の平均を上回り、成果がみられた。

・「資料活用」については、府とほぼ同等であった。

・「関数」「図形」に課題がみられた。特徴的なものとして、まず『関数』について、実際に課題のあった設問を次頁に示すが、「変化の割合やグラフの傾きの意味を理解する力」を測る設問において、正答率が24.0%、無回答率が27.8%であった。また、「具体的な事象から、 x と y の関係を $y=ax+b$ の式で表すことができる力」を測る設問において、正答率が18.8%、無回答率が28.3%であった。関数の授業において、問題事象・表・式・グラフを関連づけて理解させる指導が求められる。

『図形』についても実際に課題のあった設問を次頁に示すが、「三角形の合同を証明する力」を測る設問(記述式)において、正答率が14.2%、無回答率が38.8%であった。授業において、根拠になるものを明らかにし、筋道を立てて考え、ペアやグループワーク等を通して、説明させる(書かせる)指導が求められる。

また、「三角すいの体積と立方体の体積の比を求める設問」において、「1 : 24」と正答できた生徒の割合が3.2%、無回答率が30.3%であった。

空間図形の授業において、操作、実験、観察等の活動を通して理解を深めながら、図形を計量する力を育成する指導が求められる。

関数

- (3) 図1は、底角が 45° 、2辺の長さが8cmである三角定規（直角二等辺三角形）です。図2は、 x 軸、 y 軸を座標軸とする平面（座標平面）に、次の条件①、②に従ってこの三角定規を置いた例です。

- 条件① 斜辺でない1辺を y 軸に重ねる。
条件② 斜辺は右下がりになる。

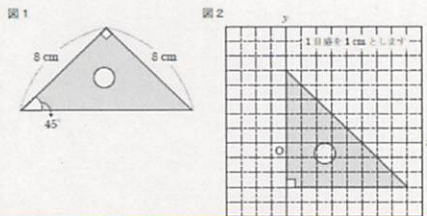
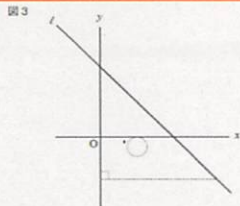


図3の直線 l は図2の三角定規の斜辺に沿って、斜辺と重なるように引いた直線です。グラフが図3の直線 l になる一次関数の変化の割合を求めなさい。

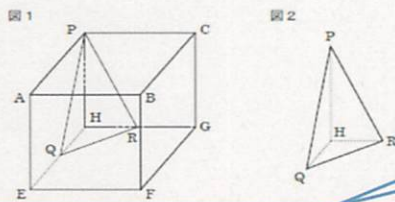


- (5) 火をつけると一定の割合で短くなる、長さが21cmのローソクがあります。このローソクに火をつけると、5分間に3cmずつ短くなっていき、35分後に燃え尽きました。火をつけてから x 分後のローソクの長さを y cmとすると、 y を x の式で表しなさい。ただし、 x の変域を $0 \leq x \leq 35$ として考えるものとします。

関数の授業において、問題事象・表・式・グラフを関連づけて理解させる指導が求められる。

図形

- (6) 図1の立体 $ABCP-EFGH$ は立方体です。この立方体を頂点 P 、辺 HE の中点 Q 、辺 HG の中点 R の3点を通る平面で切り取った立体は図2のような底面を $\triangle HQR$ とする三角すい $P-HQR$ になります。次の問いに答えなさい。



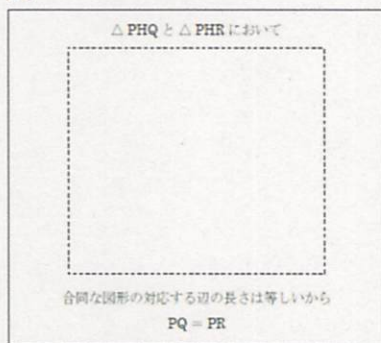
- (1) 三角すい $P-HQR$ の側面のひとつである $\triangle PQR$ において、 $PQ = PR$ が成り立つことは、 $\triangle PHQ = \triangle PHR$ を示すことから証明できます。 $PQ = PR$ が成り立つことの証明を完成しなさい。

授業において、視覚になるものを明らかにし、筋道を立てて考え、ペアやグループワーク等を通して、説明させる(書かせる)指導が求められる。

- (2) 切り取った三角すい $P-HQR$ の体積と元の立方体 $ABCP-EFGH$ の体積の比を求めなさい。(ただし、比は最も小さい整数の比で表しなさい)。

(三角すい $P-HQR$ の体積) : (立方体 $ABCP-EFGH$ の体積) = () : ()

証明



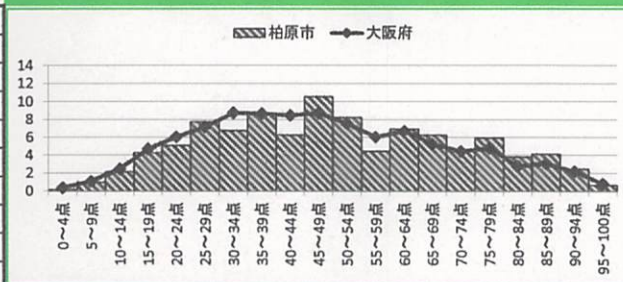
空間図形の授業において、操作、実験、観察等の活動を通して理解を深めながら、図形を計量する力を育成する指導が求められる。

④理科

	平均正答率(%)
柏原市	50.0
大阪府	47.7

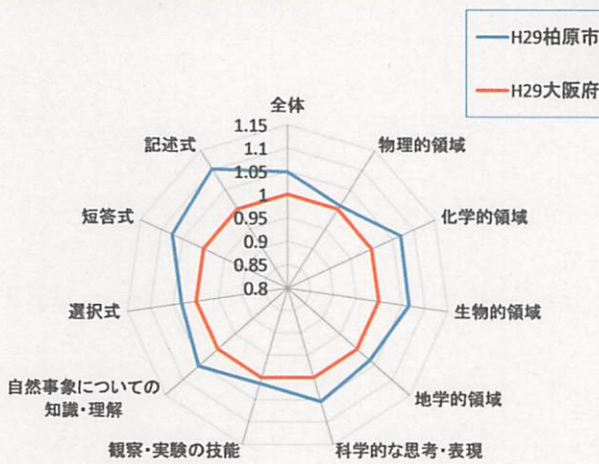
分類	区分	対象設問数(問)	正答率	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域	物理的領域	8	38.6	38.3
	化学的領域	8	38.4	35.9
	生物的領域	13	71.2	66.8
	地学的領域	8	49.7	48.0
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	—	—	—
	科学的な思考・表現	10	37.0	35.1
	観察・実験の技能	4	64.5	63.6
	自然事象についての知識・理解	23	54.1	51.3
問題形式	選択式	22	57.4	55.6
	短答式	13	45.8	42.6
	記述式	2	12.0	10.9
全体		37	50.0	47.7

◆得点別分布の割合



・分布は、やや得点の低い方に寄った山型となっている。
 ・大阪府の分布と比較して、75点～94点の分布が多く、0点～24点の分布が少ない。

◆領域別等のレーダーチャート(大阪府の平均正答率を「1」とした時の柏原市の平均正答率)



・全ての領域、評価の観点、問題形式において、大阪府の平均を上回っている。

◆特徴的な傾向と対策

・「物理的領域」「化学的領域」「生物学的領域」「地学的領域」の4領域において、すべて府の平均を上回り、成果がみられた。特に「生物学的分野」は府を5.6ポイント上回った。

・「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」「自然についての知識・理解」において、すべて府の平均を上回り、成果がみられた。

・「選択式」「短答式」「記述式」において、すべて府の平均を上回り、成果がみられた。

・すべての領域、観点、問題形式において、成果がみられたが、『化学的領域』の「科学的な思考・表現」「記述式」の「溶解度曲線のグラフから溶質を特定した理由を説明することができる力」を測る設問において、正答率が11.7%、無回答率が34.6%と課題もみられた。(設問は以下に示す)

授業において、科学的な知識や概念を活用することや、実験の結果やデータを分析して解釈し、表現させる(書かせる・説明させる)指導が求められる。

「溶解度曲線のグラフから溶質を特定した理由を説明することができる力」を測る設問において、正答率が11.7%、無回答率が34.6%と課題もみられた。科学的な知識や概念を活用することや、実験の結果やデータを分析して解釈し、表現させる(書かせる・説明させる)指導が求められる。

③ はるかさんは、いろいろな物質の結晶を取り出そうと、次のような実験を行いました。(1)～(3)の各問いに答えなさい。

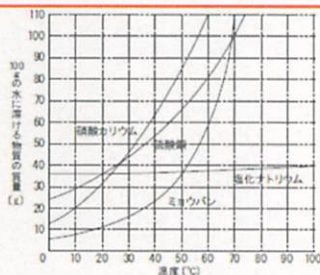
(実験)
物質を結晶として水溶液からとり出す。

方法

- 物質X、Yをそれぞれ25gずつばかりとり、それぞれ60℃の水100gに溶かす。(図1)
- それぞれの水溶液を20℃まで冷やす。(図2)
- 水溶液の様子を観察する。
- 結晶が現れたら、水溶液をろ過する。
- 現れた結晶を観察する。

結果
物質Xを溶かした水溶液は結晶が現れたが、物質Yを溶かした水溶液は結晶が現れなかった。

(3) 次の図はさまざまな物質の溶解度を表したものです。物質Xは、この図の中の物質であることが分かっています。この図の溶解度から物質Xと考えられる物質をア～エから一つ選びなさい。また、選んだ理由を「溶解度」という語を使って簡潔に書きなさい。



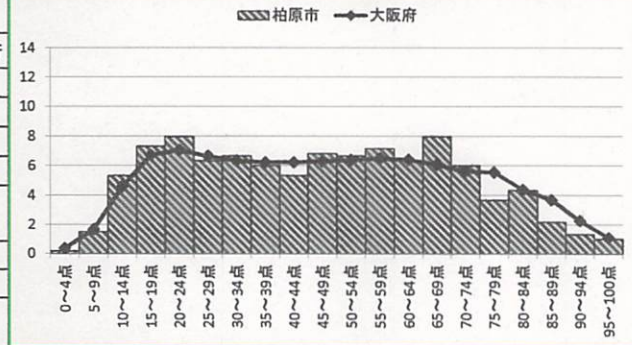
- ア 硝酸カリウム
- イ ミョウバン
- ウ 硫酸銅
- エ 塩化ナトリウム

⑤英語

	平均正答率(%)
柏原市	46.8
大阪府	48.4

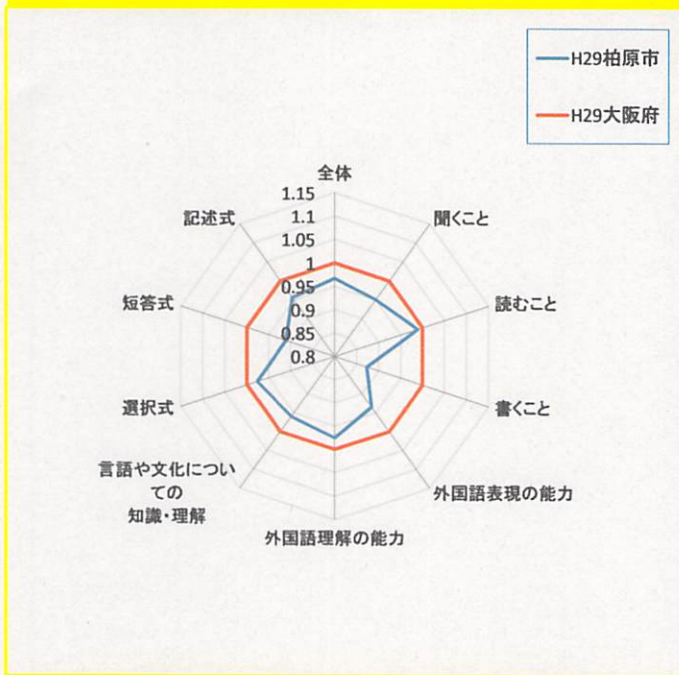
分類	区分	対象設問数(問)	正答率	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域	聞くこと	11	52.3	55.0
	話すこと	—	—	—
	読むこと	22	45.7	46.2
	書くこと	4	36.6	42.0
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	—	—	—
	外国語表現の能力	3	38.9	41.6
	外国語理解の能力	24	46.0	47.2
	言語や文化についての知識・理解	6	55.0	57.3
問題形式	選択式	25	51.8	53.0
	短答式	4	27.5	30.2
	記述式	4	42.9	44.8
	全体	33	46.8	48.4

◆得点別分布の割合



- ・分布は台形になっている。
- ・大阪府の分布と比較して、10点～24点の分布が多く、75点～94点の分布が少ない。

◆領域別等のレーダーチャート(大阪府の平均正答率を「1」とした時の柏原市の平均正答率)



・全ての領域、評価の観点、問題形式において、大阪府との開きがあり、特に「書くこと」「外国語表現の能力」「短答式」においては開きが大きい。

◆特徴的な傾向と対策

・全ての領域、観点、問題形式において、府を下回り、課題がみられた。特に「読むこと」「書くこと」に課題があり、特徴的なものとして以下に記す。

・「書くこと」について、「ポスターを見て、その情報を英文で書く力(外国語表現の能力)」を測る「記述式」の設問で、正答率が28.5%、無回答率が28.0%であった。
授業において、絵や図から読み取った情報を条件に合わせて適切に書く力を育成する指導が求められる。
 ※以上の設問については、次頁に示す。

また、「空欄に入る英語を書く力(言語や文化についての知識・理解)」を測る設問、「おたがい」という意味になるように空欄に2語の英語を書く設問では、「each other」と正答した生徒の割合が27.6%、無回答率が35.9%であった。大阪府の平均正答率は43.5%で、16ポイント程度開きがある。
授業において、まとまりのある英文から情報を読み取り、条件に合わせて適切に書く力を育成する指導が求められる。

『読むこと』について、「City Museumでの滞在時間を書く」という設問、出題の趣旨としては、「バスの時刻表と英文を読み、時間に関する内容を理解し、適切に答える力(外国語理解の能力)」を測る設問の正答率が4.3%、無回答率が24.5%であった。
授業において、英文のキーワードを読み取り、読み取った内容を日常的な場面に活用する力、4技能(聞く、話す、読む、書く)の統合的な力を育成する指導が求められる。
 ※以上の設問については、次頁に示す。

書くこと

授業において、絵や図から読み取った情報を条件に合わせて適切に書く力を育成する指導が求められる。

- (3) 地域の体育祭を伝えるポスターがあります。その内容を表す英文を1文で書きなさい。ただし、9語以上の英文で書くこと。



授業において、英文のキーワードを読み取り、読み取った内容を日常的な場面に活用する力、4技能(聞く、話す、読む、書く)の統合的な力を育成する指導が求められる。

読むこと

- 9) マサキは海外旅行で、ある町の中央駅「グランドステーション」に午前10時に着き、バスで観光をしたあと、バス停「リバーサイド」近くのホテルに宿泊しました。次の【バスの時刻表】を見て、(1)～(3)の英文を読み、それぞれの質問(Question)に対する答え(Answer)の文の()に適切な数字を入れて、文を完成させなさい。ただし、バスの運行は【バスの時刻表】どおりとします。

【バスの時刻表】

*Bus Stop	グランドステーション Grand Station	ダウンタウン Downtown	ショッピングモール Shopping Mall	ミュージアムパーク Museum Park	リバーサイド Riverside
	9:15	9:45	10:00	10:25	10:40
	9:45	10:15	10:30	10:55	11:10
	10:25	10:55	11:10	11:35	11:50
	11:15	11:45	12:00	12:25	12:40
	12:15	12:45	13:00	13:25	13:40
	13:25	13:55	14:10	14:35	14:50
	14:30	15:00	15:15	15:40	15:55
	14:55	15:25	15:40	16:05	16:20
	15:25	15:55	16:10	16:35	16:50



- (3) Masaki took the first bus in the afternoon from the Downtown bus stop to visit City Museum, and arrived at Museum Park. He walked for 5 minutes from the Museum Park bus stop to City Museum. He visited City Museum, and then he walked for 5 minutes back to the Museum Park bus stop. He waited for 10 minutes, then the bus came. He took it and arrived at the Riverside bus stop at 16:20.

Question: How long did Masaki stay at City Museum *at the most?

Answer: He stayed there for () hours () minutes.

(注) bus stop バス停 church 教会 take (乗り物を) 利用する
at the most 多くても、最大で

4. 教科別のアンケート調査結果(同一生徒群経年比較)

【国語】

国語の授業の内容はよくわかる。



・「当てはまる」と強く肯定している回答の割合は、中1と中3を比較し、やや増加しているが、大阪府と比較すると、やや開きがある。

・「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と否定的に回答している割合は経年で減っており、大阪府と比較しても低い結果となっている。

国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気をつけて書いている。



・「当てはまる」と強く肯定している回答の割合は、経年で概ね変わっていないが、大阪府と比較すると、8ポイント程度開きがある。

・「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と否定的に回答している割合が経年で減少している。

【数学】

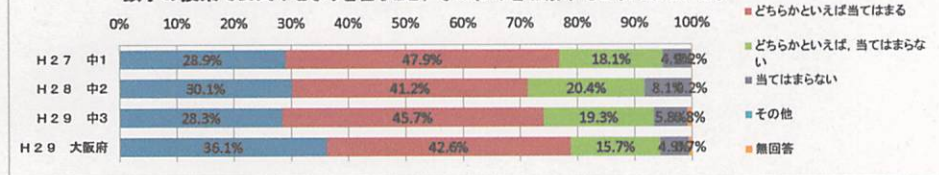
数学の授業の内容はよくわかる。



・「当てはまる」と強く肯定している回答の割合は、中2～中3では、4ポイント程度増えているが、経年では減っている。大阪府と比較すると、8ポイント程度開きがある。

・「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と否定的に回答している割合は、中2から中3では、減っているが、中1から中3では増えている。

数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。

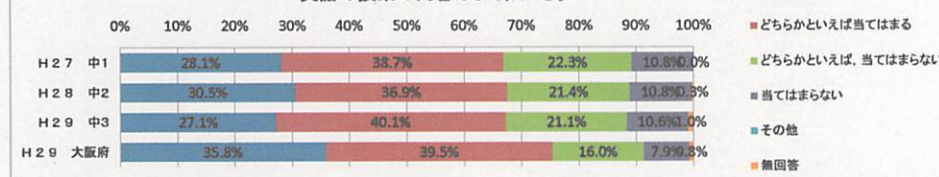


・「当てはまる」と強く肯定している回答の割合は、経年で大きく変わっていないが、大阪府と比較すると、8ポイント程度開きがある。

・「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と否定的に回答している割合が、大阪府と比較して多く、5ポイント程度開きがある。

【英語】

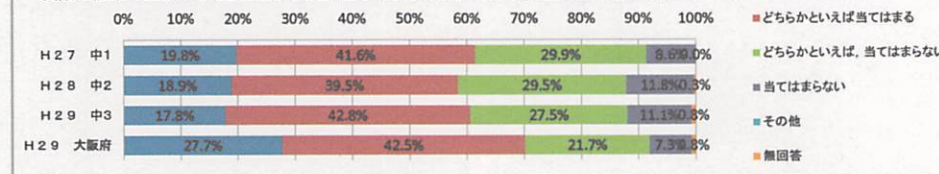
英語の授業の内容はよくわかる。



・「当てはまる」と強く肯定している回答の割合は、経年で減っており、大阪府と比較すると、8ポイント程度開きがある。

・「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と否定的に回答している割合が、経年でやや減少している。

英語の授業で自分の考えを表現するとき、相手に伝わるように工夫して話したり、書いたりしている。



・「当てはまる」と強く肯定している回答の割合は、経年で減っており、大阪府と比較すると、8ポイント程度開きがある。

・「当てはまらない」と強く否定している回答の割合は、経年で減少している。

5. 柏原市の結果からみる今後の課題について

●教育委員会がすべきこと

- 各教科の「特徴的な傾向と対策」で示した求められる指導の促進
- 「書く力」の育成をねらった具体的な施策の提案及び実施
- 市における小中9年間を見通した英語教育推進
- 家庭学習の取組好事例の収集及び学校への周知

●学校がすべきこと

- 各教科の「特徴的な傾向と対策」で示した求められる指導の推進
- 書かせる指導の見直しと組織的な取組みの推進
- 小中9年間を見通した英語教育の推進
- 家庭学習の組織的な取組みの推進

●家庭がすべきこと

- 基本的生活習慣の定着
 - ・規則正しい時間に寝て起きるリズムを意図的につくる。
 - ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう睡眠時間は平均8時間以上とるよう促す。
 - ・朝ごはんを食べるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる。
- スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り
 - ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について、家庭内でルールを決める。
- 家庭学習習慣の定着
 - ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやすを決める。
 - 【1・2年生】・・・120分
 - 【3年生】・・・150分